

供覽

事務

教育局

軍務局

人事局

醫務局

海軍省

海軍省

4000

練習艦隊第一一二號

昭和二年七月二十八日桑港旗艦艦長手

練習艦隊司令

練習艦隊司令印

第一課長

一、練習艦隊報告

其ノ一

二部

右提出ス

第一課 (別紙添)

第一課

第一課

艦長

元

下

海

軍

事務局 29 1 月 日

教育 28 1 日

昭和二年度練習艦隊報告 其ノ一

一、自横須賀至ポルル航海状況及主要作業

六月三十日午前十一時横須賀出港在泊艦船ト登舷禮式ヲ

交換ス天氣快晴ニシテ海上靜ナリ

東京灣口ニ於テ標柱間汽走速力試験ヲ行ヒ次テ午後三時ヨリ

約二時間横須賀航空隊ト聯合教練ヲ行フ參加飛行機

十八機

野島埼附近ニ於テ山城及五十鈴ト登舷禮式ヲ交換シ午後

五時七分野島埼燈台ノ南方三哩ニ於テ大圈航路ニ入ル

爾來七月十日東經百八十度ヲ東ニ通過スル迄風向南乃

至北西風力二乃至四ノ順風ニシテ皮流之ニ伴ヒ航程豫期以

上ニ進ミ其ノ後貿易風帯ニ入リテ東乃至東北東ノ逆風ヲ

<p>受ケタルモ風力五ヲ越ハス之カ爲豫^定先ツ二日ニシテ七月十 五日午後三時ホノルル入港埠頭ニ群集セル市民ノ歡迎裡 ニ艦手八十番淺間八九番棧橋ニ繫留セリ 本航海中實施シタル主要作業ハ次ノ如クニシテ毎月曜午 前ハ各艦精神教育ヲ勵行セリ</p>						
月日	曜	作	業	記	事	
七	一	金	指定教練(防火、霧中航行)陣形變換(三回)	午後三時以後使用時	+	
二	土		陣形變換(三回)、編隊汽走成績調査			
三	日		陣形變換(二回)			
四	月		陣形變換(三回)、自差測定方向探知器誤差測定			
五	火		陣形變換(三回)、測的教練、編隊汽走成績調査	午前十時以後使用時	+	
六	水		陣形變換(二回)、聯合通信教練、文書交換			
七	木		陣形變換(二回)、聯合信號教練、方向探知教練			

<p>八金</p>	<p>一〇日</p>	<p>一月</p>	<p>一二火</p>	<p>一三水</p>	<p>一四木</p>	<p>一五金</p>	<p>二、初任軍醫科士官及各科候補生實務練習ノ概要 航海中ハ天候概ネ良好ニシテ航海ノ後半相當ノ縦動アリシモ 其ノ程度漸次増加シタルヲ以テ船暈ヲ感シタル者ナク一同海上勤 務ニ對スル自信ヲ得且ツ連日曇天ニシテ濕氣甚シク稍不愉</p>
<p>正午ヨリ各艦分進(四十八時間後各艦基準針路ノ右左十五哩ニ至ラシム)</p>	<p>單獨訓練</p>			<p>午前四時合同測驗檢定(聯合信號檢定、陣形變換(三回))</p>	<p>聯合信號檢定、陣形變換(三回)、文書交換</p>	<p>中尉以下長官長以上總員聯合信號教練、照射教練</p>	
<p>午後三時以後使用時</p>	<p>東經百八十度通過十日ヲ重複ス 午後十時以後使用時</p>			<p>午後三時以後使用時</p>	<p>午後三時以後使用時</p>	<p>午後三時以後使用時</p>	

快ナリシモ酷熱ヲ感スルニ至ラス 健康状態優良ニシテ熱心

ニ實務ヲ練習シ「ホノルル」在泊中モ極メテ重要ナル見學交
歡ノ他當直部ハ常ニ在艦シテ碇泊勤務ヲ實習シ載炭ニハ
總員從事セリ、成果ノ概要次ノ如シ

初任軍醫科士官

天候平穏ナリシ爲海上生活ニ對スル大ナル自信ヲ得ルト共ニ軍
事學ノ教程豫期以上ニ進ミ機關、造船、水雷等ノ各科
座學竝ニ實習モ相當實施セリ、日常當直勤務ハ概ネ
其ノ要領ヲ得艦内衛生ヲ題材トスル研究ヲ勵行シツアリ
兵科候補生

當直勤務ハ日課實施等略其ノ要領ヲ得且ツ航海中
二艦聯合ノ信號教練ヲ勵行シ進歩相當ニ見ルヘキモアリ
太陽天測ハ實施不可能ノ日皆無ニシテ成績良好ナルモ

星天測ハ曇天ノ爲各人數回實習シタルニ過キス其ノ他
ノ練習ハ概不所期ノ成果ヲ收メツツアリ

機關科候補生

横須賀出港以來當直勤務ハ分掌指揮又ハ機關科副
直將校ノ實習ヲ開始シ略其ノ要領ヲ會得セリ尚其ノ
他ノ科目ハ豫定通實施スルコトヲ得、初メテノ長途航海
ニ對スル機關科作業ノ一般ヲ体験シ各員元氣旺盛ニシテ
所期ノ成果ヲ收メ得タリ

主計科候補生

内地航海中ハ航海日數少ク主計科事務並作業ニ對スル
實習ノ機會少カリシモ今回航海ニ於テ始メテ落附キタ
ル氣分ヲ以テ日常ノ事業ヲ或ハ座學ニヨリ或ハ實地ニ就
キ習得スルコトヲ得概不所期ノ成果ヲ收ムルコトヲ得タリ

三、衛生状況

優秀ニシテ士氣旺盛ナリ

四、ホノルル在泊中ノ主ナル行事

(一) 禮砲

月日	受禮者及時機	數	施行場所	施行砲場及其
七一五	米國國旗ニ對シ入港ノ際	二一	ト磐手	ホームストロング砲 台ヨリ同數
一六	總領事奈島主計來訪退艦ノ際	九	ト臨時淺間	
〃	本職シ陸軍區指揮官ニ對シ來訪ノ際	一三	トシヤター	
〃	本職第十四軍海軍區指揮官 JDMcDonnell少將ヲ往訪ノ際	一三	ト軍港本部前	
一八	シ陸軍區指揮官ニ對シ來訪ノ際	一三	ト磐手	

(一) 訪問			(二) 訪問				
月日	往訪又ハ來訪者	場所	答	月日	往訪又ハ來訪者	場所	答
七、一五	(來) 總領事桑島主計 歡迎委員長榮木鎮次郎 知事、陸海軍指揮官代理 米人商業會議所會頭其他	卜 磐手		〃	〃		
一六	(來) 總領事桑島主計	卜 (臨時) 淺間	即日總領事館答訪	〃	〃		
〃	(往) ハワイ州知事 Hon. William R. Foran	ハワイ州廳	七日卜 磐手ニ答訪	〃	〃		
〃	(〃) ホール市長 Charles N. Donald	ホール市廳	右 同	〃	〃		
〃	(〃) ハワイ陸軍指揮官 E. H. Lewis 少將	シヤクタ兵營	右 同	〃	〃		
〃	〃	〃	〃	〃	〃		

月日	主人	場所	被招待者	種類	服装
一六	第14海軍區指揮官 J.D.M. Donald 少將		軍港本部	大日	啓手=答訪
七五	總領事	總領事館	本職兩艦長外七名	私的晚餐	軍裝
一六	第14海軍區指揮官 Donald 少將	兵庫港茶部	本職兩艦長首席參謀計四名	午餐(洋)	軍裝
〃	日本有志	支那料理 新人和	本職以下准士官以上約五十名	招待會(支)	軍裝
〃	青年會	日本基督教 青年會館	候補生總員	招待會(茶菓)	同
一七	五〇勸業會	同上耕地	本職以下候補生以上約四百名	耕地歡迎會 (和)	同
〃	日本人會	總領事館	本職以下乘員約六百名	公式歡迎會 (茶菓)	右
一八	本職	啓手後甲板	第14海軍區指揮官 同 參謀副官 海軍參謀長 陸軍參謀長 ハワヰ子艦長 ハワヰ子海軍區指揮官 ハワヰ子商會 廣井會頭	午餐(和)	隨 意

(三) 交 歡

月日	搭載艦名	炭種炭量	載炭要領	載炭時間
(四) 載炭				
〃	日本人會	ボノル座	上陸員	活動寫真 右 同
一九	ENJANON 指揮官			
〃	ハノイ陸軍區	ボノル兵營	本職兩艦長外四名	午餐(洋) 右 同
〃	Y.M.C.A. クラブ		士官以下六百名	歡迎會(茶) 右 同
〃	總領事	モアホテル	本職兩艦長外九名	晚餐(洋) 炭種軍裝
〃	本職学委員	磯間	内外人約四千名	アトホム 隨意
			移民局長、ボノル座長、 社長、ボノル座長 (以上外人側) 總領事、副領事 歡迎委員長、勸業會議所委員 勸業組合長、NYK 支店長 日布時事社長、在報知社長 領事館員、合計二十名	

		六 講話		(五) 初任軍醫科士官及候補生見學箇所	
月日	題目	聽講者	場所	所要時間	記事
七、一六	布哇ノ海運業	本職以下官及候補生	總領事館	N.Y.K.支店長大岡直治	
七、一六	鳳梨工場			三時間	鳳梨ノ之全員
七、一七	右			一日	溪間ノ之全員
七、一七	「ホルル」市内外「エ」耕地			一日	磐手ノ之全員
七、一八	右			一日	溪間ノ之全員
七、一六	見學			三時間	溪間ノ之全員
七、一七	見學			一日	磐手ノ之全員
七、一八	見學			一日	溪間ノ之全員
七、一六	見學			三時間	鳳梨工場
七、一七	見學			一日	右
七、一七	見學			一日	「ホルル」市内外「エ」耕地
七、一八	見學			一日	右
七、一六	見學			三時間	鳳梨工場

七、一六 磐手 B2 九〇〇
 七、一七 溪間 B2 八〇〇
 右同テリツク一本使用及手
 送リテテ載炭ス
 自午前五時十分
 至午後四時十分
 自午前五時十分
 至午後三時

ハ軍樂隊派遣
月日 主催者
七月 日本人會

場所及參集人員
ハワイ州廳庭園約千人

(七) 墓 參
月日 墓 地
七八 〇ルル日本海軍墓地
主ナル埋葬者
原海軍少尉候補生以下七名
墓 參 者
本職幕僚西艦長及乘員代表

カ	内外ヨリ見タル布哇	本職以下官 及候補生	總領事館	總領事 桑島主計
一七	海軍ノ話	在留邦人 カイムキ	果人學夜	參謀機關少佐澤 達
ク	愛國心	右 同	右 同	司令部附教授生山忠雄
ク	日本ノ現状ニ就キテ	右 同 カイムキ カイムキ カイムキ	右 同 カイムキ カイムキ カイムキ	淡間砲術長少佐奧本武夫
ク	實歴談	右 同	右 同	艦手堂砲長幕野森 喜兵衛

一七	日本人會	「ホノルル市」アラ公園約二万人
一八	「エワ」日本人會	「エワ」耕地約六百人

五、雜件

(一) ホノルル出入港時眞珠軍港ヨリ米海軍曳船一隻來援ス

(二) 棧橋ハ始メ磐手海軍棧橋(No.1)淺間(No.1)ノ通知ヲ

受ケタルモ「バシ」フィツク丸ヲ横著載炭シタキ旨交渉シ

タル結果磐手(No.1)淺間(No.1)ニ變更何レモ入り船ニシテ右

舷側ヲ横着セリ、棧橋ハ「マトソン」會社所有ニシテ使用

料ハ好意ニヨリ無料

(甲) 出

(三) 出入港共各艦ニ水先人乗船、水先料ハ好意ニヨリ無料

謝禮ヲ贈ル

(申)

(四) 港務部長及部員ニ謝禮ヲ贈ル

(五) 載炭中ノ外艦内拜觀者極ノテ多シ

六、所見

(一) 歡迎熱誠ニシテ邦人又ハ日系米國市民ノ好意ハ勿論米人側カ自發的ニ歡迎ヲ申出テ米人商業會議所及陸海軍、基督教青年會主催ノ下ニ米人ノミニテ士官、候補生以下七百名ヲ招待シタルカ如キハ前例ナキコトニシテ大ニ感謝スヘキモノアリ、米人商業會議所ハ英字新聞ヲ通シテ、歡迎ノ爲國旗ヲ掲揚セヨト勸告ニ努メタリト言フ

(二) アウトホームハ招待豫定五百名ヲ約四千名ニ増加シテ盛會ヲ極メ毎日ノ艦内拜觀者亦頗ル多數ナリシモ艦外ハ勿論艦内ニ於テモ酒其他ニ依ル事故發生シタルモノナク此點ニ關シテハ在留邦人ノ節制ト乗員ノ注意ト相俟テ優秀ナル成果ヲ收メタルモノト認ム

(三) 日本人墓地整理ノ必要論セラルル際海軍墓地ノ立派ナルハ同慶ノ至ナリ

(終)

供覽

軍令部

教育局

人事局

軍務局

0022

訓官

練習艦隊第一一二號ノ二

昭和二年八月二十四日航海中旗艦警手

第一課
第二課

大臣殿

一、練習艦隊報告 其ノ二及其ノ三
右提出ス

第一課長 (別紙添)
第三課長

局長

練習艦隊司令官

平川啓
田結

練習艦隊司令官印

各二部

(終)

秋山

高崎

九月廿七日
官房雙

九月廿七日
官房雙

海軍

教育 2.10.3 横文

軍務局 2.9.27 月日

昭和二年度練習艦隊報告其ノ二

(自ホノルル至桑港出港)

一、自ホノルル至桑港航海狀況及作業

七月十九日午後五時三十分、ホノルル出港、同日午後八時四十五分、オアフ島「マカプ」燈台、北三三度東四哩、於テ大圏航路ニ入ル

爾來二十六日迄概不北東ノ逆風連吹シ風力五乃至六ニ及ヒシ事アルモ海上ノ模様概不良好二十七日以後特ニ平穩トナリ且桑港出港以後實施ノ豫定ナリシ基本教練運轉ヲ燃料搭載ノ都合上繰上ケ施行シタル爲ニ二十八日正午桑港港外燈船ニ達シ同日午後二時海軍鎗地ニ投鎗セリ
途上二十日午前二時半米國戰艦艦隊司令長官「ジャクソン」大將引率ノ潜水母艦一、驅逐艦五、潜水艦一三、合計一九

		航海中ノ主要作業次ノ如シ	
		二十六日以後第一種軍装トス	
		スルヲ喜フ旨信號セシニ鄭重ナル返電ニ接シタリ	
		隻膏隊ノ左舷約二千五百米ヲ反航シ本職ヲ舊友ニ會合	
月日曜	業	記	事
七、元火	陣形變換(二回)	午後時後使用時+10	
二〇水	右 同(一回)		
二二木	右 同(二回)、霧中航行教練		
二三金	測距及探照燈信號教練、文書交換陣形變換(三回)		
二三土	編隊行走成績調査、陣形變換(二回)		
二四日	陣形變換(一回)	午時時後使用時+9	
二五月	各艦精神教育、測距檢定(三)、探照燈競技、探照燈信號及照射教練、文書交換		

	<p>二六 火 陣形變換(三四) 兵科候補生機銃射撃(時間終了セシモ 撃手ハ標的ヲ射落シ中止ス)基本教練運轉 (編隊第一四節三時間同六五節一時間) 陣形變換(三四)</p>	
<p>二七 水</p>	<p>尉官檢定、自差測定、照射教練、 文書交換、陣形變換(二四)</p>	<p>午後五時以後復用時ハ</p>

二、初任軍醫科士官及各科候補生實務練習ノ概要
 航海中相當ニ縱横動セシラトアルモ動搖漸加セシ爲船暈ヲ
 感セス前回ニ引續ク長時日ノ航海ニ益、自信ヲ強メ加フル
 ニ天候概不良好ニシテ且氣候清涼ナリシ爲旺盛ナル士氣
 ヲ以テ實務ヲ練習シ桑港在泊中ハ極メテ多忙ノ間ニ重要

ナル見學ト碇泊勤務ノ實習ト行ヒ約二十餘時間ノ載英
作業ニ總員從事セリ

成果ノ概要次ノ如シ

(一) 初任軍醫科士官

診療部ハ診療事務ヲ練習スルト共ニ看護員ノ勤務ヲ
實驗體得セシメ、衛生部ハ艦内居住衛生ノ基本の概
念ヲ了得セシムル爲衛生狀況最佳良ナリト思考シ得ヘキ
「ホノル」桑港間ニ於テ居住各區劃ニ於ケル氣温、濕度
並炭酸瓦斯ノ測定ヲ行ヒシメ高爾後ノ各航海ニ於テモ
之ヲ實施シテ其ノ成績ヲ比較セシムル豫定ナリ

教練運轉ハ仔細ニ見學且其ノ一部作業ヲ實習セシメ又
航海中醫學抄談會ヲ開催セリ

桑港ニ於テハ見學表ニ示スカ如ク主ナル醫學關係箇所ヲ

見學セシメ又當隊聯合裝創競技ニ委員トシテ参加セシメタリ

(二) 兵科候補生

航海中ノ實務練習ハ極メテ順當ニ經過シ天測ハ星測可能ノ日稀ナリシモ太陽測不可能ノ日皆魚ナリシ爲太陽天測技術ノ進步顯著ナルモノアリ

桑港在泊中見學講話(後記参照)等ニヨリ裨益スル所大ナリシハ勿論初メテ米國本土ノ風物ニ接シ港灣施設ノ概要メーヤ島軍港及米國戰艦等ヲ見學シ皮相的タルヲ免レサルモ一種ノ概念ヲ得タルモノト認ム

尚又可成當直船員ハ在艦セシメ繁忙ナル碇泊直ニ就カシメ比較的効率良キ當直勤務ヲ實習セシメツツアリ

(三) 機關科候補生

航海作業ハ反覆之カ習熟ニ努ムト共ニ一部ノモノヲシテ始
 ヲテ艦橋當直及甲板係士官勤務見習ヲ爲サシメタリ

諸實驗及基本教練運轉ニ其ノ都度對策ヲ與ヘ研究
 竝成績調査ニ從事セシメ又碇泊中ハ當直船員ニハ作業ノ一
 部ヲ實施セシムト共ニ見學表記載ノ通各部有益ナル
 見學ヲナサシメ航海共ニ多忙ヲ極メシメ一同元氣ニシテ豫
 期ノ成果ヲ收メツツアリ

(四) 主計科候補生

航海中ニ於ケル實務練習ハ豫期ノ成績ヲ擧ケ特ニ主計
 兵ト共ニ意欲作業ヲ實習セシメ將來部下指導上極メ
 テ有益ナル經驗ヲ體得セリ、桑港在泊中ハ見學ノ交
 款ニ寧日ナカリシモ見學表記載ノ各部見學竝米國軍
 艦乗員ト露マタル交遊等ハ將來ニ大ナル効果ヲ齎スルキモ

ノアルヲ疑ハス

三、衛生狀況

優秀ニシテ士氣旺盛ナリ

但シ磐手乗組兵三名胸膜炎爲襟裳便乘歸國セシメタルハ甚ク遺憾トスル所ナルモ病狀ハ輕快ナリ

四、米國接待艦隊

米國ハ戰艦戰隊第三隊司令官「デーラー」少將指揮ノ下ニ少將旗艦「ペンシルバニア」及「アリソン」ヲ接待艦トシテ「ビューゼツトサウンド」ヨリ派遣シ當隊ニ先クテ「桑港」ニ入泊セシメ在泊中別項記載ノ交歓以外ニ手旗交信ノ規約ヲナシ又「アットホーム」當日内火艇ヲ派遣シテ來客送迎ノ用ニ供シ又ハ我候補生以

一
二

五、桑港在泊中ノ主ナル行事

上ヲ彼ノ定期ニ便來セシムル等努メテ親善ノ態度ヲ持シ
 且候補生總員ノ兩艦見學ヲ承諾セリ（但シ艦内諸公室等
 ヲ通覽セシメタルノミニシテ兵器類ハ概不被覆シヨカタバルトハ
 被覆セサリシモ繩ヲ張りテ接近セシメス）
 兩艦ハ當隊出港ノ翌朝出發シテ戰鬥艦隊作業地（ロニー
 セットサウジト）ニ向フ豫定ナリト言ヘリ

(一) 禮砲

月日	受禮者及時機	數	施行場所	答砲及其施行場所
七、二	米國國旗對シ入港ノ際	二一	砲手	答砲及 其施行場所 ロニー セットサウジト 兵營ヲ圍數
々	米國第士海軍指揮官 F. Hornad - Washington			

	少将對シ入港ノ際	一三	ト	警手	ヨリト島ノ同敷
	〃 總領事、領事官、市長、市令、市長、訪送艦ノ際	五	ト	警手	
	〃 本職、本國駐米軍隊、第三大隊指揮官 General Montgomery M. Taylor 少将ノ訪送艦ノ際	一三	ト	警手	
	〃 右 Taylor 少将來訪送艦ノ際	一三	ト	警手	
	二九 本國駐上海海軍總指揮官、Lieut. Col. Livingston 少将來訪送艦ノ際	一三	ト	警手	
	〃 本國駐九陸軍區指揮官、John 一 少将來訪送艦ノ際	一三	ト	警手	
	Subsided Times 少将來訪送艦ノ際	一三	ト	警手	

記事一、禮砲施行箇所ノ件

第十三版海軍諸例則卷三、三三二頁 San Francisco, Cal. 欄

次、如ク訂正スルヲ可トス

「Pavilion」兵營於ノ野砲ヲ用フ

該兵營ハTobagoノ東斜面ニアリ且海軍鋪地ヲ見エサル以

テFortを通過後直ニ禮砲施行ヲ便トス

ニTobago少將ノ旗ニ對シ入港ノ際禮砲ヲ施行セサリシ件

入港ノ際國旗ニ對スル禮砲ヲPavilion兵營ト交換シ次ニ米

國第士海軍區指揮官Wainwright少將ニ對スル禮砲ヲ施行シ

之ニ對シTobago島ヲ答砲ヲ受ケタル事前提載ノ如シ

然ルニ米國側ニ於テハ豫テ我總領事代理ト打合せモアリ

島ヲノ答砲後磐手ヲTobago少將ノ將旗ニ對シ禮砲ヲ

行ヒペンシルハニヤリ答砲ヲ行フモノト豫期シ居リシモ彼

我禮砲規則ノ解釋上其必要ナシト認メテ之ヲ施行セス

入港ノ際Tobago少將ノ派遣セル訪問使(大尉參謀)ニ其ノ

旨説明セルモ充分納得セサル様子ナリシヲ以テ本職Tobago

少將ヲ訪問ノ際禮砲規則及大正十一年七月二十四日「サンデー
 イブ」ニ於ケル出雲禮砲事件ニ關シ當時米國大使館附武官
 トシテ本職自ラ米國海軍省ト交渉セル前例ヲ説明シ以テ
 本職説明ノ委曲御承知上尚貴官ニ於テ此際禮砲ヲ必要
 ナリト思考セラルルナラハ本職ニ於テモ圓滿ニ考慮スヘシト述
 ヘタルニ「~~貴官~~少將ハ」貴官ノ解釋正當ナリ、禮砲施行ノ必要
 ナシ、貴官本職退艦ノ際禮砲ヲ行フ、本官、貴官ヲ訪問
 ノ際碧手ヨリ禮砲ヲ受ルコトトス（シト明言シ當方解
 釋ノ如ク決定セリ）

三、本職米國第九陸軍區指揮官トシテ少將往訪ノ際禮砲
 ヲ受ケス少將來訪ノ際禮砲ヲ施行シタル件
 本職ノ「~~本職~~」少將往訪ハ先方ヨリ當日不在ニ付來訪ヲ
 受ケ難キ旨豫報アリシモ翌日、行事ノ都合上不急ニ往訪

<p>月日</p>	<p>往(來)訪者</p>	<p>場所</p>	<p>答訪</p>
<p>七、六</p>	<p>(來)總領事代理柴田市太郎</p>	<p>ト磐手</p>	<p>二十九日領事館答訪</p>
<p>〃</p>	<p>(來)日米歡迎委員</p>	<p>ト磐手</p>	<p></p>
<p>〃</p>	<p>(來)華港市長 James R. Pike Sr.</p>	<p>ト磐手</p>	<p>二十九日市廳答訪</p>

(二) 訪問

セシ爲當直士官、周章甚クシカリシヲ以テ、司令官ノ御不在ハ承知セシモ明日ノ行事ノ都合上本日推參セリ、名刺ヲ置キテ敬意ヲ表シタシ何卒不意儀禮ハ辞退スレト述ヘ退出セリ、而シテ少將ハ即日午後本職ヲ答訪シ、貴官ニ對シ禮砲ヲ行フ意志ナリシモ小官不在ニシテ不意ノ御來訪ニテ禮砲施行ノ用意無ク缺禮セリト釋明セルヲ以テ少將退艦ノ際磐手ヲシテ禮砲ヲ施行セシメタリ

<p>〃(往)米國駐港總領事官三浦清輝(少将)</p>	<p>米國駐港總領事官</p>	<p>即日(答)手(答)訪</p>
<p>二九(往)米國駐港海軍區指揮官(少将)</p>	<p>海軍區本部</p>	<p>即日(答)手(答)訪</p>
<p>〃(往)米國駐港陸軍區指揮官(少将)</p>	<p>陸軍區本部</p>	<p>右</p>
<p>〃(往)米國駐港海兵指揮官(少将)</p>	<p>海兵水部</p>	<p>右(同) (Warrant Officer)</p>
<p>〃(往)香港米人商業會議所長</p>	<p>商業會議所</p>	<p></p>
<p>八二(往)香港市長</p>	<p>市 廳</p>	<p></p>
<p>(市長或レセプション・本職以下候補 生以上の名を参列ス)</p>		
<p>記事 七月二十九日本職各方面ヲ公式訪問ハ際幕僚兩艦長ヲ帶同シ テ自動車三台ヲ連テ八月二日自桑港市長公式レセプションハ 幕僚兩艦長 兩艦士官約三名 及候補生總員ヲ帶同シテ士 官用自動車一二台及候補生用大型自動車四台ヲ連テタルカ兩 日共前後左右ニ自動自轉車ニ乘レル警官 (Motor Car) ヲ配シ 警官ヲ連吹シテ一切ノ通行ヲ停止セシメ國賓板ノ公式通行ニ</p>		

準スル儀禮ヲ執行セリ

(三) 交 款

月日	主人	場所	被招待者	種類	服装
七月	日本協会	フヤル下 オヤル下	本職以下候補生以上約一四名	レセプション	通常禮装
三〇	三本	市公會堂	本職以下士官二名	晚餐	右同
〃	〃	三本	士官以下約四三名	演藝會	右同
〃	〃	三本	總領事代理 市橋 桑港目 日本新聞社社長 米新聞社社長 住友銀行支店長 三井支店長 三友支店長 長澤長 總領事館員三名	午餐	右同
〃	〃	三本	市橋	餐	右同
〃	〃	三本	外邦人二名	餐	右同
〃	〃	三本	早稲田會館書記長	餐	右同
〃	〃	三本	外邦人二名	餐	右同
〃	〃	三本	總領事館員三名	餐	右同
〃	〃	三本	外邦人二名	餐	右同
〃	〃	三本	總領事館員三名	餐	右同
〃	〃	三本	外邦人二名	餐	右同
〃	〃	三本	總領事館員三名	餐	右同
〃	〃	三本	外邦人二名	餐	右同

歓迎會餐
軍

装

三	森澤末員	山ノ碁手	米人約一五〇名	アトホム
四	碁手士官	碁手士官	和人約二〇〇名	午餐軍装
、	深間士官	深間士官	ブリソナ士官二名	午餐右同

(四) 載炭

月日	塔載艦名	炭種	炭量(噸)	載炭要領	載炭時間
七、元	淡間	B、	一三六。	分り横着カシメ使用	自午前六時三十分 至午後九時十分
三、	磐手	B、	一三二。	右	自午前六時三十分 至午前六時三十分

記事一、ハシソック丸ハ各艦共塔載開始前横着ス

二、アソックノ都合悪キ爲塔載速度大ナラス 特、碁手ハハシソ

ック丸ノ庫底ヲ塔載セシ爲作業意ノ如クナラス 上下總

員徹夜奮闘シテ漸ク翌朝六時三十分取込ニ終了

午前十時三十分艦内整理ヲ終レリ

		(五) 初任軍醫科士官及候補生見學箇所	
月日	見學場所	所要時間	記
七、三〇	「カリフォルニア」大學病院	三時間	醫、總員
	桑港施療病院	二時間	右 同
	桑港陸軍病院	二時間	右 同
三一	「カリフォルニア」大學	二時間	醫、總員 各艦半員
八一	「メーヤ」島軍港	一日	候、各艦半員
	「スタンフォード」大學	半日	醫、總員 各艦半員
二	「ペンシルバニア」	四時間	醫、總員
三	「メーヤ」島軍港	一日	醫、總員 各艦半員
四	「ペンシルバニア」	二時間	醫、總員 各艦半員
	「アリゾナ」	二時間	淡間候補生全員

海軍

(六) 講話				(七) 軍樂隊派遣			
月日	題目	聴講者	場所	講話者	月日	主催者	場所及参集人員
七、二九	排日及移民問題	候補生以上	ト磐手	外務省嘱託 高橋博士	七、二九	日本協會	「フエヤメントホテル」レセプション、参會者數百名
〃	〃	〃	〃	新東京新聞社 三宮利作	三一	桑港日本人會	市公會堂、歡迎演藝會、参會者數千名
〃	海軍生活之顧慮	「アラメ」邦人 「四〇〇」邦人	「アラメ」邦人 「アラメ」邦人	参謀 少佐 殿村全郎	〃	愛國心講話	「オウクラ」邦人 「オウクラ」邦人
〃	〃	〃	〃	夏部尉 教授 生山忠雄	〃	〃	〃

六、雜件

(一) ホルル出港ノ際領事以下見送りノ市民埠頭ニ群集シ領事發聲ニテ萬歳ヲ三唱ス。埠頭ノア只ノ島塔ニ米國國旗ヲ掲ケテ之ヲ上下シ且汽笛ヲ連吹シテ見送ヲ盛ニス

(二) 桑港入港前霧アリ Radio Compass ヲ利用セリ

(三) 桑港入港ノ際水先人各艦ニ乗艦ニ有料

(四) 桑港錨地ハ海軍錨地ニシテ其ノ錨地區分並番號ハ米國軍機海圖ノミニ記入シアリテ水先人モ之ヲ知ラス 當隊ハ無線電信ニ見指定、投錨位置ニ投錨シタルニ該指定ハ米國海

原

圖

軍カ錨地番號ニテ指定セルニ對シ帝國領事館ニテ投錨位
置ト附記シ打電セル結果兩艦共錨地變更ノ止ラナキニ至
レリ、襟裳入港ノ際モ領事館ヲ介スル錨地指定不適切ナ
リシニ鑑ミ指定錨地ニ關シテハ充分考慮スル必要アリ、特ニ
艦カ振レタル時モ艇カ區界線外ニ出テサルコトヲ絕對要件トス
（五）桑港ノ清水ハ塩分過多ニシテ雜用水ニ供シ得ルモ缶水
飲料水ニハ適セス

（六）桑港ニ於ケル上陸棧橋ハ *Quarley Pier* ヲ使用セリ、米國海軍
モ本棧橋ヲ使用ス

（七）便乘者片山昇、桑港ニ於テ退艦

大使館附武官輔佐官海軍少佐小林仁（啓手ハ）

歐米出張中ノ海軍少佐中村俊久(淺間)

何レモ、ハハナ迄ノ豫定ニテ便乘

通譯小花務船子ニ乘艦、ニールレアンヌニテ退艦ノ
豫定

ハ) 桑港市内電車ハ制服ノ乗員ニ對シ無料トセリ

カ) 桑港在泊列國軍艦

米國

ペンシルバニヤ、アリゾナ(當隊ノ港當日前より出港翌日迄在泊)

驅逐艦三三三號及二七九號(八月一日以後在泊)

特務艦、アークチック (右) 同

日本

海

軍

特務艦隊 (八月二日以後在泊)

七、所見

一般ニ桑港市民及米國官憲ハ當隊ニ厚意ヲ表シ親善
 ラ圖リ接待艦隊モ亦接待ニ努メタルモト認め
 練習艦隊寄港カ領事館及帝國諸會社等ニ米國側ト
 交款ノ機會ヲ與ヘ今後相互間ノ交渉ヲ圓滑ナラシムル
 因トナリシユト明カナリ

〇

昭和二年度練習艦隊報告其ノ三(亞特蘭提克)

一、自糸港至サンピドロ航海状況及主要作業

八月四日午後五時拔錨水先人ヲ乗艦セシメス米國艦隊ヨリノ信号ニ謝意ヲ表シ特務艦襟裳ノ登艦礼式ニ答ヘツツ糸港ヲ出港ス金門水道通過ノ際既ニ視界約二哩ノ霞アリ終夜雲中航行ス翌日尚霧霽レサリシモ數同太陽ヲ認メ正午天測位置ヲ求メ且ツ午後四時半ヨリ短時間、アルゲロ岬ヲ認メバハラ水道ニ入ル日没後濃霧襲來シ無線方向燈測知所(雜件ノ部参照)ノ測知ヲ參考トセシモ水道通過ニ相當ノ苦心ヲ為レ加フルニ遭遇ノ汽船多ク航中至近ノ距離ヲ反航シテ幸ラシテ避航シタルモノ等アリ

シモ豫定ノ如ク六日午前八時「サンビドロ」港口着多数
 ノ歡迎船、歡迎飛行機及埠頭ノ群集セル邦人及
 市民ノ熱狂裡、繋手ハ「サウザンパシフィック」鉄道
 會社 決間ハ「ボネニスチーム」會社機橋ニ接着
 繋留セリ（繋手ノ繋留セル機橋ハ長朽セルヲ以テ
 當日午后四時日本郵船會社機橋ニ繋留ス）
 本航海ノ途上決間ハ五日午前七時二十分右舷主機
 中圧リンクブロックヲ滑坐ニ轉裂ラ生シタルヲ以テ左舷
 機ヲ以テ片舷機航行ヲ爲シ午後四時右舷機ヲ中
 圧抜キ「コンパウンドエンジン」トシテ準備成リ兩舷機
 航行ニ復シ「サンビドロ」在泊中右舷所ヲ應急修理
 セリ
 航海中ハ震動ノ爲僅ニ危ノ作業ヲ實施シタルニ過キサ

リシモ震中航行ハ程メラ有効ナル訓練ナリキ

月日 曜 作 業

八、五 金 機銃射撃(艦行時)

〆 〆 聯合測的教練

〆 〆 陣形變換(二回)

二、初任軍醫科士官及各科候補生官修練習ノ概要

航海日時少ク且ツ震中ノ為航海中ノ訓練特記スヘキモ

ノナレ サンピット口在泊中ハ有益ナル見聞ヲ行ヒ碇泊

勤務モ多忙ノ間ニ努メラ實習セリ 成果ノ概要次如

シ

(一)初任軍医科士官

航海中ハ前期ニ續キ各種ノ教育ヲ行ク「サンピット口在

要

目

泊中ハ見學子表記載ノ見學子以外ノ水道、下水、牛乳取給狀況、傷害阻止法、其ノ他ノ衛生設備等ヲ今担見學調査セシメ終メテ有益ナル報告ヲ彙集シ得タリ

二 兵科候補生

本航海ハ比較的短時日ニシテ途中機銃射撃ヲ施行シテ外特記スヘキ事項ナキモ長時間ノ霧中航行ヨリ貴重ナル經驗ヲ得タリ

サンピドロ在泊中ハ地方在尚同胞ノ活動、ロスアンゼルス市ノ繁榮及地方農業、油田ノ狀況ヲ見學シ南加州ニ於ケル文化並天産ノ両方面ニ關シ多大ノ知識ヲ得タリ

三 機關科候補生

幸港に於て配属部ヲ變更シタルヲ以テ本航海ヨリ
 新配置ノ就キ各種教育ヲ施シタリ 特ニ霧中航
 行ニ對スル機關ノ操縦法ハ貴重ナル經驗ナリキ
 「サンピドロ」在泊中ハ附近一般見學ミヨリテ見聞ヲ
 廣メシノミナラス「ロングビーチ」並「シゲナルヒル」附
 近ノ油田及「リッチフィールド」石油會社製油所ヲ
 見學シ操益セシトコロ尠シナラス

(四) 主計科候補生

「サンピドロ」在泊中ハ「ロスアンゼルス」市内及近郊ノ見
 學ヲナサシメ且「加州産業」並「日米問題」ニ關スル
 講義等ニ依リテ當方面ニ於ケル産業並社會問題
 ニ關スル知識ヲ廣メタルミナラス二三ノ候補生
 ラシテ領事館、商業會議所、市場等ニツキ實

地調査ヲ為サシメタル結果得タルトコロ對カラサル
モノアリ

三、衛生狀況

優柔ヨミテ士氣旺盛ナリ

浅間乗組少尉候補生大友傳吾カ突然咯血肺
結核ト判明レテ十一日退艦南加日本病院ニ委託
療養セシメテ十六日附横須賀海兵團附拜命
ニ十六日「サンピトロ」出港ノ日本郵船「サイベリヤ」
テ飯國セシムルニ至リタルハ甚ク遺憾ナリ

四、サンピトロ在泊中ノ行事

(一) 礼砲

月日	受礼者及時機	数	場	施行	施行砲及其所
八、六	米國々旗之対シ入港ノ際	二一	A	整手	ヨリ同数
今日	領事水澤君東米訪連航ノ際	七	全		
今日	本艦カサンピトヨ要塞司令官ヲ答答ノ際	一、三	ヨリ同数	ヨリ同数	

記事

一、礼砲施行箇所ノ件

第十三版海軍諸例則卷三 221頁 Los Angeles, Cal.、
欄、記事ナレバ次ノ如ク記入スルヲ可トス

Fort MacArthur

Fort MacArthur : Los Angeles -

Harbor : 砲台(英版) 邦版(英) 中 San -

洋 員

Pedro - 駐 U. S. Representative in Paris
 防政委員會議各孔施施行可トス
 (註) San Pedro - Los Angeles - (駐) with Sam-
 Pedro - 港 Los Angeles Harbors - 港

(三) 訪問

月日	往 (来) 訪 者	場 所	谷 訪
八六	(一) 領事 水澤孝策	A 警手	即日領事館谷訪
"	(二) 日籍人會長 其他 数 迎委員 代表	会	
"	(三) ロスアンゼルス 商業會議 所 會頭 代理	会	
"	(四) サンペドロ 商業會 代理	会	
"	(五) 米國海軍「サンペドロ」出港 所員	会	日米職代理 谷訪
"	(六) サンペドロ 商業會議 所 會頭	会	即日米職谷訪

(三) 交款

月日	主人	場所	被招待者	種	美	服装
八	ロンドン市会 人用會	上	不職以下一四九名	午	餐	全
七	日名六二世 青年子大 Y.M.C.A.	料亭福川	候補生全邦	茶	話會	全
八六	邦人博覽會 歡迎本部	料亭福川	不職以下八名	晚	餐	軍裝
〃	(三) 神戶商會 德丸社長		全			
〃	(二) ロンドン市会 市長		市廳			
〃	(一) サントロ 軍需司令官		A 警手			即日本職答答
〃	(シ) 米國特務長 官		全			
七	(シ) 石特務 長		全			日本職行答答
八	(注) ロンドン市会 商業會議所會頭 (本職代理)		商業會議所			
〃	(一) ロンドン市会 (本職代理)		税関			

一書

三三

(四) 初任軍医科士官及候補生見學箇所

月日	見學場所	所要時間	記事
八七	Tottengen sanatorium	二時間	初任軍医科士官全部
"	Country hospital		
"	日本人病院		
八	ロシアシベリア附近及活動撮影所	一日	各體半日
九	右	同	
"	リツタフィールド石油會社	二時間	候補生十一名(士官ト同行)

(五) 講話

月日	題目	聽講者	場所	講話者
八六	米國ノ軍事教育制ヲ	候補生以上	整手	軍省員長前住島内長也

原 宣

(六) 軍樂隊派遣

八六	日本今日ノ問題	外人約三... 木根 吉 藤田 四郎	司令部付 川田 十三郎
日米問題ノ軌	候補生以上 ト艦手	藤田 四郎	
月日	主 催 者	場 所	及 参 集 人 員
八七	羅府邦人管絃樂團	羅府合同教會	約八〇名

五、雜 件

(一) 雲中航行中 Pt. Aguilla, Pt. Huareme 及 Pt. Jorhuan 等、無線方向測知所ヨリ艦位並測深ヨリ航約セリ
 向ミ翌朝正確ナル艦位ヲ得ル、及ヒ無線方向測知所通報、艦位ノ充分信用ヲ置クニ足ルコトヲ實証セリ

(二) カンビエロ埠頭中日本郵船會社 (General Steamship Co.)

及 *Dellan Line* の埠頭ハ新造ニシテ吃水三十呎以上アリ

且ツ長濤ノ影響稍小ナルモ他ノ棧橋ハ長濤ノ曝露ニ

而シ概ネ腐朽シテ繫柱ノ強度等充合ナラス又市街側

ハ水深三十呎以内ノ部多シ

今回ハ入港前ヨリ引續キ天候良^カ好ニシテ長濤微

弱ナリシ爲繫留中ニ事故ヲ生セサリシモ長濤アルトキハ

前記三埠頭ト雖 繫索ヲ切断スルコト多シ(然レトモ

此ノ如キ状態ハ稀ナリト云フ)

長濤ナキ場合、於テ大潮シテ落差約六尺、及フコトア

ルヲ以テ全繫索ヲ満潮ノ際均等ニ張ル如ク注意セサ

レハ過短ノモノヲ切断スルコトアリ今回繫手ミテ一本切断

セリ

一

四

(三) 清水ハ埠頭ニテ容易ニ補給シ得ルモ水負ハ褐色ヲ帯ヒ
 雑用水以外ノ使用ニハ不適ナリ

(四) ガンピドヨウハ港共水先人各艦ニ乗艦、無料、謝礼ヲ
 贈ル

當港在泊中天候不良ノ場合又ハ繫留桟橋ニ事故
 ラ生スル虞アル場合等ハ事後ノ交渉ヲ容易ナラシム
 ル爲直ニ水先人ヲ招ク可トス 水先人乗艦セハ桟橋
 等ノ事故ニ關スル交渉ハ一切水先人ノ負担トナル
 尚又繫留中天候不良ノ爲桟橋ヲ毀損スルコトアルモ
 其ノ責任ハ港務管理者ノ施設不充ノナルニアリトシテ
 一切損害賠償ノ必要ナシトスラ (日本郵船支店長木村義徳)

(五) ロスアンゼルス附近團體見学用自動車及電車等ハ日
本人會ヨリ提供ヲ受ケタリ

(六) 米國駐在陸軍砲兵少佐畑勇三郎「サンピドロヨリ」ニ
「オurlリンス」迄ノ豫定ヲ便乗(浅間)

便乗者渋谷義夫 今関大造 米國各地旅行ノ為
サンピドロヲ退艦 九月二十八日 紐育ヲ乗艦ノ豫定

(七) サンピドロ在泊列國軍艦

米國

特務艦「ラマポ」

駆逐艦三〇三号(當隊ト同日入寄港ス)

海

軍

六、所見

ザンビトヨ「ロスアンゼルス」ハ電車ヲ無償トセサリシ外艦隊
 ニ對スル市民官憲ノ好意幸港ト大差ナキモ税關
 長、港務部長「ゴダラ」汽船會社「セニス」スチームシッブ
 會社等ハ特別ノ好意ヲ表シ便宜ヲ圖レリ 特ニ日本
 郵船會社支店長ハ繁島棧橋變更^{改修}作業其繁島
 ニ關スル諸般ノ交渉、多大ノ便宜ヲ圖レリ
 艦隊ノ寄港力税關、市廳、港務部對邦人會
 社又ハ個人間ノ今後ノ交渉ヲ著シク容易且、因
 満ナラシメタルハ一般ノ認ムルトコロナリ

(終)